

中嶋紘二さん 福岡県知事賞受賞・JA筑紫農産物品評会



JA筑紫は、12月2日に筑紫野市のJA本店で、農産物品評会2020を開きました。JA管内の生産者が出品した野菜や果実、花など525点から、優秀賞20点、優良賞30点を選出。

3日に行った表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた中嶋紘二さんをはじめ、特別賞を受賞した生産者16名のうち8名を表彰しました。例年JA収穫祭「ふるさとまつり」で行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、単独での開催となりました。

白水組合長は「コロナ禍で大変であったにも関わらず、日頃から大切に育てている品質の良い農産物をたくさん出品していただきました。生産者の皆さんのおかげで例年通りに開くことができました」と話しました。

品評会は毎年、JAが生産者の意識の向上や農産物の品質の向上を図る目的で開いています。福岡農林事務所福岡普及指導センターの今泉美紀センター長を審査委員長に、審査委員12名が品種の特徴や揃い、品質、商品性などを審査しました。

まちの安全に貢献・防犯資器材贈る



JA筑紫は12月8日、春日警察署と筑紫野警察署で、安全で安心なまちづくりに役立つ資器材の贈呈式を行いました。

筑紫野署では、末次敏男署長や、JAの白水組合長などが参加。JAが防犯協会へ二セ電話詐欺防止通帳ケース500枚を、交通安全協会へ交通安全指導旗56本などを贈りました。

JAは、特別金利のマイカーローン販売し、飲酒運転の撲滅、交通事故防止を組合員や利用者へ呼び掛けています。また、ローン収益の一部を使い、安全安心まちづくりに役立つ資器材を関係団体へ贈る取り組みを10年以上続けています。今回は2019年10月1日～2020年5月31日まで販売した「飲酒運転撲滅マイカーローン」の収益の一部を使い、贈呈を行いました。白水組合長は「地域に貢献できる取り組みです。二セ電話詐欺の防止や、学校の交通安全活動などで活用し、安全安心なまちづくりに役立ててほしいです」と話しました。

末次署長は「貴重なものをいただき大変ありがたいです。今後、地域の安全を守るため大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。

ブロッコリー栽培研修会



JA筑紫ブロッコリー部会は12月上旬、JA物流センターで栽培研修会を開きました。部会員や福岡普及指導センター職員ら18名が参加。夏に収穫するブロッコリーの適正な播種時期、栽培管理方法についての研修を行いました。また、同日には部会役員らが視察研修会を行い、熱心に意見交換しました。

本場のキムチづくりを学ぶ



JA筑紫女性部農業関係グループは12月10日、筑紫野市総合保健福祉センターカミーリヤで「漬け物づくり講習会」を開き、29名が参加しました。

グループは、野菜・加工品作りの技術向上を目指し、例年は年3回程度の講習会を行っています。今年度は、コロナウイルス感染拡大の影響により今回が初めての開催となりました。

当日は、筑紫野市在住のファン・ソクチョンさんを講師に迎え、「本場韓国白菜キムチ」に挑戦。参加者達は楽しみながら真剣に受講していました。また、講師へ「いつまで保存ができるの?」「他の材料でも作れる?」などの質問が次々と挙がりました。

グループの活動はレシピの情報交換など、日頃の生活にも役に立つ内容が好評です。

第65回筑紫地区農業祭



太宰府天満宮で12月12日に、第65回筑紫地区農業祭が行われました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からJA理事や管内の農業関係者などの代表が参列。農業の発展と五穀豊穡（ほうじょう）を祈りました。

祭典では、巫女（みこ）による神楽奏上や参列者の玉串拝礼などで収穫の礼を尽くしました。

式典では農業振興に貢献した功労者6名を表彰。笑顔で表彰状と記念品を受け取りました。功労者を代表して春日市の吉村厚生さんが「この受賞はこの上ない励みになります。今後も農業に精進していきたいです」と挨拶しました。

子ども食堂へ寄付



JA筑紫は12月14日、大野城市のNPO法人チャイルドケアセンターへ教育ローン成約件数に応じた寄付を行いました。贈呈式では、JAの白水組合長が、法人の大谷清美代表理事へJA農産物直売所ゆめ畑商品券10万円相当を手渡しました。

JAは、食と農を通じたJAらしい地域貢献活動として子ども達の成長に貢献したいと、教育ローンの成約件数に応じた法人への寄付を4年間続けています。今回は、2019年10月1日から2020年4月30日までの「めざましごはん教育ローンキャンペーン」の成約97件分。

法人は、子育てのための情報とネットワークづくりをサポートする団体。JA管内5市に46カ所で、ボランティアが地域で暮らす大人や子どもを対象に設ける、食事の提供や交流する場「子ども食堂」の支援を行っています。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により子ども食堂の開催が難しいため、「フードパントリー」を行い、食料品を無償で提供しています。

大谷代表理事は「商品券は、子ども達の笑顔に繋げるため、大切にに使わせていただきたいです」と話しました。

白水組合長は「地域の子どものために、この支援を続けていくことが重要です」と笑顔で話しました。

組合長たちに感謝を贈る



JA筑紫の白水組合長とJA職員は12月14日、春日市立大谷小学校を訪れ、児童たちが開いた「感謝の会」に参加しました。

白水組合長やJA職員が年間を通して田植えや稲刈りなど米作りを教えています。今回、児童が感謝を表す催しとして開きました。例年は、10月に収穫した米と一緒に味わっていますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会のみでの開催となりました。児童が考えたレクリエーションを楽しんだほか、米作り指導のお礼として準備したリコーダーの演奏や合唱、感想文をまとめた文集を受け取りました。児童は「農家の方の大変さやJAの工夫を知ることができました。これからもお米一粒一粒を大切に食べたいです」と話しました。

白水組合長は「コロナ禍の中、立派に育ててくれました。農業を体験したことを、これからの長い人生の中で少しでも役立ててくれると嬉しいです」と笑顔で話しました。

この授業は、5年生を対象とした「総合的な学習の時間」の一環。JAは児童の食農教育をサポートする目的で、20年以上関わっています。

第4子誕生を祝う



JA筑紫は、JA原田支店で2020年内に第4子が生まれた住宅ローン利用者の家庭に新米1俵(60kg)を贈りました。

これは、20年中に第2子以上が誕生、または誕生予定の世帯を対象とした子育て支援「新米ドンドンプレゼント」の一環。対象のJA住宅ローン利用者の世帯に対し、第2子誕生は新米5kg、第3子は10kg、第4子以上は60kg(1俵)の新米を贈ります。

子育て支援と共に、米の消費拡大と少子化対策への貢献を目的として毎年行っています。

今回、新米「夢つくし」を受け取った家族は20年2月に第4子が誕生しました。「新米のプレゼントは大変嬉しいです。家庭で美味しくいただきます」と笑顔で話しました。

地元の農畜産物で高校生にエールを！「コロナに負けるな！頑張る高校生応援プロジェクト」



JA筑紫は12月14日～17日の4日間、「コロナに負けるな！頑張る高校生応援プロジェクト」として、管内の高等学校11校にJA直売所「ゆめ畑」などで使える商品券を贈りました。これは、JAで行う「ふれあい活動」の一環で、今回が初めての取り組み。JA直売所でも使える商品券を贈り、次世代への地産地消運動につなげます。

また現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校の各種行事が中止になるなど、活動が制約される状況が続いています。その中でも勉強や部活動へ真剣に取り組む高校生へ「コロナに負けないように頑張ろう！」と応援するため企画しました。

17日には県立福岡農業高校を訪問。JAの白水組合長が、廣松隆二校長へ商品券を手渡しました。白水組合長は「生徒のために役立ててくれると嬉しいです」と話しました。廣松校長は「大変ありがとうございます。大切に活用させていただきます」と謝辞を述べ、商品券を受け取りました。

福岡農業高校は、農業に関する学科として都市園芸科、環境活用科、食品科学科、家庭に関する学科として生活デザイン科の4科があります。また、全国で唯一、短期大学設置基準に則したカリキュラムで農業の専門教育を行う専攻科も有する高校です。部活動や文化祭等の行事に加えて、大手メーカーや太宰府市、JAとの共同開発の商品販売、JA直売所への出荷など多岐に渡って積極的に活動しています。